

令和5年6月20日

兵庫県歯科医師会附属兵庫歯科衛生士学院
学院長 浦出 雅裕 様

学校関係者評価委員会
委員長 岸本 裕充

学校関係者評価委員会報告

令和4年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ①岸本 裕充 (兵庫医科大学 主任教授)
- ②西田 真也 (西田歯科医院 院長)
- ③安田 篤史 (株タカラベルモントデンタル事業部神戸営業所所長)
- ④竹内 知恵 (むつみ会 (同窓会) 会長)

2 学校関係者委員会の開催状況

第1回委員会 令和5年6月4日(木) 16時～16時36分

(会場：兵庫県歯科医師会附属兵庫歯科学院専門学校第1実習室)

3 学校関係者評価委員会協議報告

別紙のとおり

以上

令和 4 年度第 1 回学校関係者評価委員会 主な協議内容

(1) 令和 4 年度自己評価について

I 教育目標と令和 4 年度の重点目標について

令和 4 年度においても依然として新型コロナウイルス感染症は収束せず、第 7 波、第 8 波と反復する感染のピークが見られたが、わが校においては基本的な感染対策やワクチン接種の推進などにより、重症化やクラスター発生は見られず、講義や実習を円滑に進めること、病欠者に対する補講や補習をどのように組み込むかが重点目標であった。

ワクチン接種率の高い高齢者や基礎疾患を持つ人では感染者数が減少しているが、接種率の低い若年者では十分な効果が出ていない。したがって、本校学生には感染防止対策の徹底とワクチン接種の促進を図るとともに、感染者および感染疑いのある者や体調不良者は登校しないように指導している。学生および教職員の健康と安全を守ることは最重要課題であり、学内に感染を持ち込まない、学内に感染を拡げないよう留意し、授業や実習を滞りなく進めることを第 1 の目標とする。

各種感染防止対策により現在まで重症感染者やクラスターの発生は認めていない。散発的に感染者や濃厚接触者が出ているが、家庭内や学外での感染がほとんどを占めている。緊急事態宣言やまん延防止等重点措置発出時には適宜休校や時短としたが、学習効率を考慮し、厳密な感染防止対策のもとにリモート授業より対面授業を主体に行った。高齢者施設や障がい者施設での臨地実習はコロナ禍での受け入れ先の減少により、一部で学内での関連演習に切り替えた。以上の対応により、授業や実習は休暇期間に食い込むことなく年間の必要時間数を消化することができた。

II 各評価項目について

1 教育理念・目的・育成人材像

兵庫県歯科医師会立学校として、50 年余に渡り地域医療のため 3,900 名を超える歯科衛生士を育成している。

豊かな人間性と実践力を備えた歯科衛生士の養成を教育理念の中心に置き、今後も教育理念を具現化するための教育目標に基づき指導を充実させていただきたい。

iPad を用いた教育システムをさらに充実させていただきたい。

それとともに、患者の個人情報、貴重な研究資料などの取扱い方法、情報管理についての教育と警鐘もこれまで以上に行うべきである。

医療コミュニケーションの育成については現場でも多くの課題があり、在学中に基本知識を身につけることが大切である。

2 学校運営

学校運営に関する事項は運営協議会において検討・協議され適切な運営を行っている。

毎年度、事業計画・事業予算を作成し、兵庫県歯科医師会理事会・代議員会の承認を得ている。今後も引続き兵庫県歯科医師会と連携を図り、学校運営にあたっていただきたい。

3 教育活動

カリキュラムに関しては、運営協議会および教育課程編成委員会にて検討され、「目標」「教育項目」「授業内容」「成績評価」はシラバスに掲載されている。

成績評価・単位認定に関しては学則に明確に定めており、問題は生じていないとの報告からも適切な学生教育が行われていると判断できる。

国家試験対策では1年次と2年次には各1回模擬試験を実施し、早期より試験を体験させている。3年次では8回実施しているが模擬試験の結果から成績不良科目を分析し、専任教員が国家試験合格に向けた学習方法をアドバイスしている。また、夏期講座や直前講座を開催し、夏期講座では知識の整理と確認を行い、国家試験直前2ヶ月には科目講師による特別補講を行っている。さらに、弱点克服のための個別対応として専任教員による個人補講を実施し、国家試験直前までサポート体制が出来ている。国家試験に向けた手厚いサポートは高く評価する。

新型コロナウイルス感染のため臨床実習や学生参加のイベント等の実施が困難な状況があったが、学内での演習や学内発表に替えた対応を行った。

4 学修成果

徹底した国家試験対策や就職ガイダンス、教員による就職面接への対策により、高い国家試験合格率と就職状況について評価できる。

兵庫県下の歯科衛生士養成校が増加しているため、卒業生が増えることによる就職の問題が今後の課題となるのではないかと懸念されている。

就職活動時期の指導や就職地域の指導等、今後も手厚い就職支援を行っていただきたい。

5 学生支援

担任制を取り学生一人一人と向き合った指導を行い、教員と学生との距離が近い関係を築いている。

体調不良者、成績不良者については早期に学生面談を実施し、保護者との連絡を密に行うことにより退学率低減を図っている点は評価できる。

また、スクールカウンセラーを置き、学生のメンタル面でのフォロー体制を取っていることも学生支援としては重要である。

学内で学業奨励制度を設け、成績優秀者や勤勉学生を表彰することは学生の勉学意欲を高めるために有効と考えられる。

国家試験不合格者に対しても本人の希望があれば国家試験補講が実施されている。

令和2年度から始まった修学新制度に対応する機関となり対象者の授業料減免を実施している。

さらに、国、兵庫県の助成事業を活用し新型コロナウイルス感染拡大により経済的な影響を受けている学生に対しての支援を行った。さまざまな学生支援を実施した点は非常に評価できる。

6 教育環境

カリキュラムに対応した施設・設備・教育用具等を整備し、定期的に点検と見直しを行っている。

防災に対する取り組みとして、災害備蓄品（飲料水、乾パン、簡易トイレ等）を整備し、消防訓練の実施、災害マニュアルやサバイバルカードの作成等、積極的な取り組みがなされている。

安全管理では、静脈認証による出入り管理を導入し、警察署の指導のもと防犯講習を実施するとともに防犯グッズ（さすまた、ネットランチャー）を常備している。

新型コロナウイルス感染防止対策として、教室や実習室に光触媒除菌機と除菌フィルターを設置した。校内には AI 顔認証検温モニター、便座クリーナー、アルコール消毒液と噴霧器を設置した。

今年度は Wi-Fi 環境更改工事、iPad を活用した教育システムのバージョンアップ作業も行われ教育環境がよく整備されている。

7 学生の募集と受入れ

ホームページ、スクールガイド、オープンキャンパス（年 8 回）、学校紹介サイトなどで積極的に学校紹介がなされている。

社会人に対する学生募集の強化は今後の課題となる。特に歯科助手経験者に対するアドバンテージの検討やアドバンス教育を検討いただきたい。

8 財務

事業計画・事業予算、決算書は兵庫県歯科医師会理事会・代議員会で承認を受け、適切に運営されている。

今後も適宜事業計画の見直しを行い、計画に沿った事業予算に基づき運営を行っていただきたい。

9 法令等の遵守

実習中における患者等の個人情報の取扱いについて、学生の認識が低いように思われる。個人情報保護に関する研修の強化を図っていただきたい。

10 社会貢献・地域貢献

ボランティアの内容については学校側が把握した上で学生に周知していただきたい。

今後とも兵庫県歯科医師会および兵庫県下の郡市区歯科医師会が主催する行事に参加し、地域社会に貢献いただきたい。